

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財) 日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2020.8.1

vol. 44

赤谷の森でわかったこと

赤谷の森の哺乳類

東京農工大学名誉教授 梶

光一

トピックス

● 地域と繋がる赤谷プロジェクト

みなかみ町立新治小学校 校長 加藤 正一

● みなかみユネスコエコパークの今とこれから

みなかみ町総合戦略課 エコパーク推進室

小野 宏和

(小出俣の大カツラ 撮影: 赤谷森林ふれあい推進センター)

AKAYA no MORI

ミニ写真館

今回のテーマ

「いきもの村のチョウ・トンボ」

(写真: 赤谷森林ふれあい推進センター)



アサヒナカワトンボ(淡橙色型)



オオミスジ



アサヒナカワトンボ(橙色型)



ヒメシジミ



ヒメクロサナエ

赤谷の森で
わかったこと

赤谷の森の哺乳類

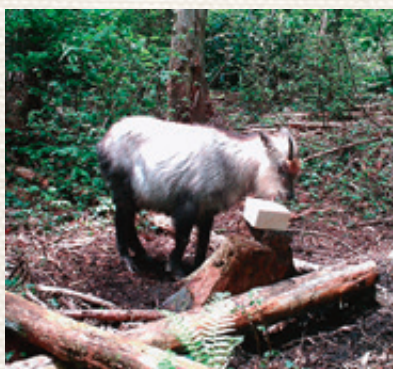
赤谷の森は、群馬県みなかみ町の南西部に位置し、新潟県との県境に広がる約1万ヘクタールの国有林で、ブナ、ミズナラ、トチノキなどの落葉広葉樹林からなる自然林約5600ヘクタールのほか、低標高地には人工林約3000ヘクタールが存在する。自然林には野生動物の餌資源となるブナ、ミズナラなどの堅果類、多種の落葉広葉樹の枝・葉、果実などが豊富に存在し、良好な生息地となっている。また、生物多様性復元を進めるため、エリア内の森林の3割を占める人工林を1割に減らすことが目標として掲げられ、野生動物の生息地復元の試みとしても画期的な試みが実施されている。



ブナ、ミズナラ堅果に強く依存するツキノワグマ

赤谷の森では、哺乳類の分布や生息動向を把握するために、ほぼ全域を対象に2008年に1kmあたり1台のセンサカメラが51か所に設置され、今日までモニタリングが継続されてきた。文献によると、赤谷の森では哺乳類43種類（外来種であるハクビシン、ノイヌ、ネコも含む）と、本州に生息する在来哺乳類の多くが確認されている。一方、センサカメラを用いた調査によって、画像から識別が困難なネズミ類とコウモリ類を除いて、群馬県内に生息する中大型哺乳類20種すべてが確認されている。コウモリ類については、コウモリの会有志がコウモリ類の音声解析によって、プロジェクトのエリア内で10種を確認している。以上から、赤谷の森では、環境変動に敏感とされるコウモリ類も含め、在来哺乳類相がワンセットで保全されており、生息環境は良好な状態で維持されてきたと考えられる。

赤谷の森の周辺地域ではシカの分布域の拡大や生息数が急増していることから、赤谷の森にもその影響が波及することが危惧された。そこで、2013年にシカの生息状況とシカが植生に与えた影響調査を行ったところ、シカの影響が表れやすい湿地・伐採地の一部で、下層植生への過剰採食が見られたものの、餌不足のおりに出現する樹木の剥皮は限定的であること、摂食の影響を受けやすい高山草原や低木林においては顕著な影響は見られなかったことから、現時点でシカが低密度であり、侵入初期段階であると考えられた。しかし、センサカメラによる2008～2019年の11年間のモニタリング調査結果から、シカの出現地点数は14倍、出現頻度は21.5倍に増加したこと、幼獣が2017年以降には毎回確認されるようになったことなどが判明した。さらには、2019年には三国峠付近のニッコウキスゲの花の食害が発生したことから、シカの分布拡大と生息数の増加が進行していることが明確になった。そこで、侵入初期段階のシカへの取り組みとして、低密度で維持することを管理目標の基本とし、シカの個体数動向を反映する指標の選定とモニタリングの継続、誘因・捕獲方法の検討、管理体制の検討、シカ管理と森林施業を一体となして進めるなどの総合的な取り組みが開始されたところである。



鉱塩に誘引されたカモシカ



鉱塩に誘引されたニホンジカ



東京農工大学名誉教授

かじ こういち
梶 光一

地域と繋がる

赤谷プロジェクト

自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

「赤谷の森」のお膝元、新治小学校の校長です。本校では地域に根ざした「一人一人の子どもの“好き”を増やせる学校」を目指しています。各学年の総合的な学習の時間はみなかみユネスコエコパークと関連した学習を行っています。特に5年生では「赤谷の森」について、子どもたちが思いのテーマを設定して探求しています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

本校に赴任した昨年4月にみなかみユネスコエコパークの研修会で、講師のみなかみ町職員の小野宏和さんとお会いしました。小野さんを通して、新治小学校でお世話になっている赤谷プロジェクトの方々のお話を聞かせていただく機会を得ました。そ



総合的な学習の時間

れぞれの方の「赤谷の森」に対する熱い思いや本校の学習への大きな期待を感じました。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

5年生の「赤谷の森」の学習計画を一新しました。赤谷プロジェクトの方々にテーマ設定からまとめの発表まで継続して関わっていただいて、子どもたちが赤谷の森をより深く調べられるようにしたいと思っています。そして、子どもたちの「赤谷の森が好き」「動植物が好き」「自然が好き」「新治が好き」につなげたいと考えています。

赤谷プロジェクトへ一言!(何でもOK!)

貴重な自然を守る活動は、人間が人間らしく生きる環境づくりにつながっています。新治小学校の子どもたちが「赤谷の森」を体感しながら成長し、将来、その魅力を活かして新治地域を発展させてくれることを願っています。お力添えをお願いいたします!



みなかみ町立新治小学校

みなかみ町立新治小学校
校長
かとう しょういち
加藤 正一さん



みなかみユネスコエコパークの

今とこれから



木育キャラバン



みなかみ町全景

人と自然が共生する社会の世界的なモデル地域として「みなかみユネスコエコパーク」が誕生してから3年が経過しました。この間、みなかみ町では、みなかみユネスコエコパークを観光や農林業、子どもたちの環境教育等にかけるように、町内外へ幅広く周知啓発を進め、町の自然をまもり、いかし、ひろめる取組の強化を図るとともに、木育や自伐型林業、広葉樹の6次産業化などの新しい事業にも取り組んでいます。

また、昨年7月には国から「SDGs未来都市」の選定も受け、ユネスコエコパークと関連の深いSDGs(持続可能な開発目標)に関する取組にも力を入れています。



みなかみ町総合戦略課
エコパーク推進室

おの ひろかず
小野 宏和



色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



R2.2.1

みなかみ町環境学習発表会

みなかみ町カルチャーセンターにて開催された「みなかみ町環境学習発表会」に、ネイチャークラフトブースを出展しました。



R2.2.8

赤谷の森自然散策(冬)

雪の積もった「いきもの村」でスノーシューを履いてトレッキングを楽しんだ他、猿ヶ京温泉にて民話と紙芝居を鑑賞しました。



R2.2.13

森林・林業技術等交流発表会

関東森林管理局において、イヌワシの繁殖をサポートする取り組みである「イヌワシの狩場創出試験」についての発表を行いました。



R2.2.17

みなかみ町との意見交換会

赤谷プロジェクトをより充実したものにしていくため、地元であるみなかみ町とこれまでの取り組みや今後について話し合いました。



R2.3.30

水生昆虫調査

溪流環境における生物多様性の指標を得ることなどを目的として、水生昆虫の調査を行いました。



R2.5.9

5月赤谷の日「桐植栽地に看板設置」

いきもの村で昨年から植栽している桐の手入れを行ったほか、植栽地の入り口に説明用の看板を設置しました。



R2.6.9

Webを活用した第1回企画運営会議

新型コロナウイルスの影響で人が集まらないなか、初のWebを活用した企画運営会議を行い、協定書の改定などについて話し合いました。



R2.7.3

上毛高原駅にPRブースを設置

上毛高原駅構内に、赤谷プロジェクトの取り組みなどを紹介するPRブースの設置を行いました。



R2.7.13

三国山登山道脇にシカ柵を設置

三国山登山道脇に自生するニッコウキスゲを、近年のシカによる食害から保護することを目的として、シカ柵を設置しました。

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

[赤谷森林ふれあい推進センター](#)

[検索](#)



赤谷プロジェクトサポーター募集!

(たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：萩原

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※「森のおもちゃの家」内

理事 本多 結

メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 萩原 正朗

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 佐藤 健司

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp